

カトリック香里教会 年間第二主日 2022年1月16日

— イザヤ 62章・1-5、1コリント 12章・4-11、ヨハネ2章1-11 —

〔そのとき、〕ガリラヤのカナで婚礼があって、イエスの母がそこにいた。イエスも、その弟子たちも婚礼に招かれた。ぶどう酒が足りなくなったので、母がイエスに、「ぶどう酒がなくなりました」と言った。イエスは母に言われた。「婦人よ、わたしとどんなかかわりがあるのです。わたしの時はまだ来ていません。」しかし、母は召し使いたちに、「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」と言った。そこには、ユダヤ人が清めに用いる石の水がめが六つ置いてあった。いずれも二ないし三メトレテス（1メトレテス=約39ℓ）入りのものである。イエスが、「水がめに水をいっぱい入れなさい」と言われると、召し使いたちは、かめの縁まで水を満たした。（中略）召し使いたちは運んで行った。世話役はぶどう酒に変わった水の味見をした。このぶどう酒がどこから来たのか、水をくんだ召し使いたちは知っていたが、世話役は知らなかったので、花婿を呼んで、言った。「だれでも初めに良いぶどう酒を出し、酔いがまわったところに劣ったものを出すものですが、あなたは良いぶどう酒を今まで取って置かれました。」イエスは、この最初のしるしをガリラヤのカナで行って、その栄光を現された。それで、弟子たちはイエスを信じた。 -ヨハネ2章-

確かなしるし

私たちは、洗礼によって聖霊をいただき、聖霊は、私たちを宣教者とするために霊の力(カリスマ)を与えます。ある人には、聖書を理解する知識の言葉が、

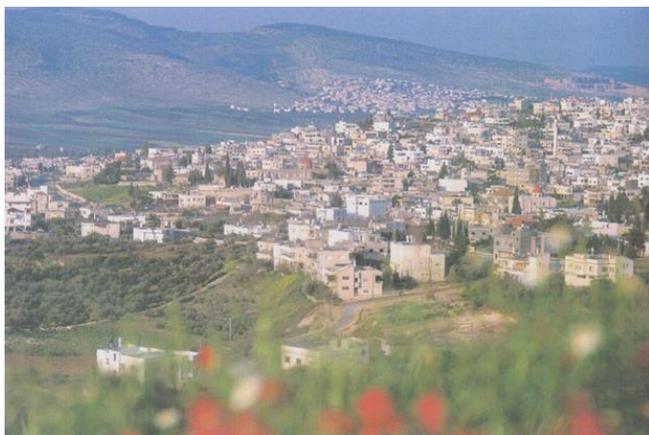
ある人には、信仰の力が、

ある人には、病気を癒す力が、

ある人には、奇跡をおこなう力が、

ある人には、予言する力や、異言を語り、解釈する力が。

神がそれをご自分が望まれるままに一人一人に分け与えられるのは、全体の益となるためであって、その人のためではありません。それを戴いたからと言って自慢したり、注目を集めるためにラッパを吹くためではないのです。



中近東の習慣で、一週間にもわたって続く婚礼の宴に、ブドウ酒が切れる事態は一大事です。母はいち早くそれに気づいて窮地をわが子イエスに向けました。

イエスは、霊の力を、周囲にラッパを吹く鶏のように用いることを良しとするお方ではありません。ご自分の使命は「十字架の時」であり、それが人類すべての救いとなる、父からこの世の遣わされた使命であることを私たちに気づいてもらう必要があるのです。

母はそれを受け止め、心をイエスに委ねて退きます。やがて、人類の母とされるマリアの「神への信頼」に、イエスは弟子たちの前で『しるし』を持って応えられるのです。

私たちが、必要としているものを事欠くとき、それを察したマリアさまの心は、わが子イエスの心と一つであることを、今日、カナの奇跡は、私たちに示して下さっている確かな「しるし」なのです。

2022年1月16日 主任司祭 昌川信雄